

大山隠岐国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

個別取組が進展し、目標達成に向けて順調に推移

●総評

- ・トイレの洋式化、拠点整備等のハード面による受入環境整備及び、広報ツールの作成等プロモーションの取組が大山隠岐国立公園全体で進展。
- ・大半のSUP個別取組が進展。SUPを改訂し「周辺地域との連携」を位置付け。二次交通の拡充、水陸両用機を活用したツアー展開等が進展。
- ・目標に向けた利用者数の順調な増加を確認した一方、交通アクセス、通信状況、外国語対応、情報発信等の課題の解消が必要。

これまでの成果

大山隠岐国立公園内各地域での外国人利用者数が増加傾向

大山隠岐国立公園内各地域（大山・三徳山・蒜山・島根半島東部・島根半島西部・三瓶山・隠岐）毎に、外国人宿泊者数、外国人施設利用者数データを収集・分析し、増加傾向を確認

- 近隣空港の香港・台湾・韓国直行便拡大、クルーズ船着岸数増加や、ファミトリップ・記事掲載・口コミ拡大等を通じた国外への周知を通じ、各地域の外国人利用者数が増加
- 大山寺地区において廃屋を撤去し、カフェや物販機能を有する「大山参道市場」がオープン。また、三瓶山においてもH30年度内に廃屋撤去予定であり、引き算の景観改善が促進。
- オオサンショウウオ保全体験ツアーの開始、三瓶山の草原管理に関する地元飲食店の協力等の保全と利用の好循環に関する仕組みづくりが進展。
- トイレ洋式化、多言語看板や歩道の整備、大山ナショナルパークセンター等の拠点施設の整備、ツアーデスクの設置等が公園内各地で進み、外国人の受入環境整備が進展。
- P V等各種広報ツールの作成、口コミ評価拡大を目指した「大山隠岐国立公園国際サポーターズプログラム」の創設、公式SNS立ち上げ等のプロモーションが進展。

●訪日外国人国立公園利用者数

(2020年目標：2015年の2.5倍)

2015年 0.6万人 (28.9%) → 2017年 1.1万人 (25.5%) ()は標準誤差

●独自調査に基づく集計結果 (統計上の精査が必要)

大山隠岐国立公園外国人利用者数推計

2015年 2016年 2017年
8.2万人 → 9.2万人 → 11.6万人

○質の指標

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額
2017年度 69,236円
- 国立公園周辺外国人延べ宿泊者数
2017年度 4.4泊
- 国立公園での外国人リピーター率
2017年度 6%
- 満足度
2017年度 24.6% (「大変満足」の割合)

加速化・強化が必要な取組

二次交通・外国語対応・情報発信等の課題解消に向けたエリア全体における取組強化が必要

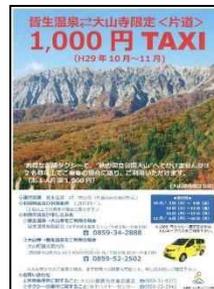
- 国立公園訪問者アンケートの結果から、自然景観、宿泊施設、おもてなし、ガイドの質等の評価が相対的に高かった一方、交通アクセス、Wi-Fi環境の不足、外国語対応、情報発信、食事等に課題があることが判明。また、全国平均より利用者満足度が低かったため、大山隠岐国立公園及び周辺地域を含めたエリア全体で課題解消に取り組む必要がある。
- 周辺地域と連携して魅力を提供するために、既存の取組・検討の中で国立公園利用への誘導を盛り込む等、目標年までに効果を発揮できるように検討・実施を進めることが必要。
- 各個別項目について、目標年までに取組を進めるとともに、費用対効果の高い取組に集中的に投資することや、関係機関で連携して効率的・効果的に取組を実施することが必要。



エリア別外国人利用者数の例



大山ナショナルパークセンターとエントランス空間整備



大山定額タクシー 域内在住外国人向けイベント開催



オオサンショウウオ保全体験ツアー

大山隠岐	個別目標	2016	2017	2018	2019	2020	
			1.1万人 (2015年比約2倍達成)			2015年の2.5倍	
特徴① 環境保全に貢献しながら公園を楽しむ	2018年 オオサンショウウオ保全ツアー販売開始	 オオサンショウウオ保全ツアー開発に向けたエコツアー・人材育成・ファミトリップ開催 三瓶山の地元飲食店の売上の一部を草原景観保全に寄付する仕組みの構築	オオサンショウウオ保全ツアー販売開始	メディアファム等を通じたプロモーション	サステナブルツーリズムの destinations としての知名度向上 保護と利用の好循環形成 利用者満足度向上		
		大山における一般参加型の山頂保全活動（一木一石運動）の国内外への周知・トイレ汚泥搬出作業等のイベント開催	大山環状線でマイカー規制時利用のツアー商品化（H29）・販売継続	大山における携帯トイレシステム導入検討			
		2020年 隠岐4島における世界ジオパークと運動した利用拠点施設整備完了	大山寺地区2か所における廃屋撤去と跡地へのカフェ・物販用施設「大山参道市場」整備	三瓶山地域における廃屋撤去		大山寺地区電線地中化	
		2018年 国立公園内外を横断するロングトレイルの再整備・公表	ジオパークや日本遺産等と運動した利用拠点施設（情報提供・観光案内・ツアーデスク等）整備 （H30：松江ビジターセンター/米子国際観光案内所開所、H31：日御碕観光案内所開所、H31～：三瓶自然館リニューアル、蒜山における設置検討）	隠岐4島の世界ジオパークと運動した利用拠点施設整備（H28：西ノ島、H30：知夫里島、H32：島後島・中ノ島）		大山観光案内所・ツアーデスク・カフェ設置	登山基地・休憩機能・公園情報を提供する大山ナショナルパークセンター開所
特徴② 海から山までつながる多彩な自然の恵みと神話等の豊富なストーリーを楽しむ	2018年 大山ナショナルパークセンター	三瓶山でグランピング開始	蒜山・塩釜野営場の再整備とグランピング開始	民間の知見を活用した大山・蒜山4野営場の再整備/蒜山野営場における食・アクティビティとキャンプ利用が運動したプログラム開発	※左記以外にもトイレ・歩道・展望台・避難小屋等の既存施設の再整備を各地で実施		
	2018年 蒜山野営場 モニタリングキャンプ	携帯アプリ・ピーコンと運動した大山森の遊歩道整備	大山古道等の歩道を活用した公園内外を横断するロングトレイルの再整備とルート公表				
	2017年 域内在住外国人活用の仕組み構築	大山開山1300年祭	大山開山1300年祭/山陰DC/山の日全国大会等との運動	三瓶山全国植樹祭			
	2018年 大山開山1300年祭、山陰DC等と運動したPR	PV・Web・パンフ等の多言語広報ツールの開発	オンライン・オフラインでの戦略的な広報実施 / 山陰インバウンド機構等との連携				
特徴③ 旅慣れたリピーターがより深く日本を知る	2019年 二次交通バス検討・情報一元化サイトの構築	大山・蒜山・島根半島・隠岐におけるガイド人材育成/大山・隠岐におけるガイド認証	域内在住外国人活用の仕組み構築	域内在住外国人を活用した口コミ評価拡大や大山隠岐国立公園公式SNSを活用した国外発信	大山定額タクシー・日御碕夕日バス等運行	二次交通バス検討・情報一元化サイト構築	二次交通利用に関する利便性向上に向けた取組
	2019年 ファムトリップ開催	二次交通バス検討・情報一元化サイト構築	二次交通利用に関する利便性向上に向けた取組				

阿蘇くじゅう国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

利用環境の改善・向上の加速化が必要

●総評

全体満足度（特にプログラム、遊歩道・展望台）が低調。多様なニーズに対応するアクティビティの充実等を推進しつつ、事業者のキャッシュレス化、情報案内の多言語化、二次交通利用の使いやすさの向上等により利便性の向上を進める必要がある。併せて、阿蘇火山ガス規制等による利用機会の損失を改善するため、主要景観地における利用の多様化に取り組み、「**利用環境の改善・向上**」の取組を加速化していく。

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 140万人)

2015年 2016年 2017年
68.2万人 → 67.5万人 → 92.6万人
(2.7%) (2.9%) (2.7%) ()は標準誤差

※2017年に韓国、香港から熊本空港への直行便が再開。熊本地震の復興支援の気運も高く、アジア利用者が増加

●熊本県や大分県の訪日外国人宿泊者数

両県の訪日外国人宿泊者数が2015年から2017年にかけて約9%増加（のべ141万人→153万人）

○質の指標

(2017年)

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額 91,659円
- 国立公園周辺外国人延べ宿泊数 2.4泊
- 国立公園での外国人リピーター率 17.9%
- 満足度 33.0%

これまでの成果

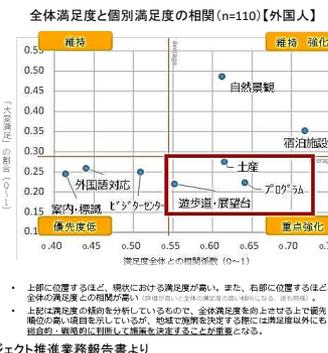
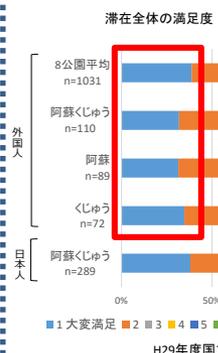
国立公園訪日外国人利用者数が2年間で36%増加

- 景観改善の取組**：開放的かつ爽快な草原景観を十分に堪能できるための眺望スポットにおける通景伐採、利用拠点における電柱移設・埋設化、草原景観を支障となる老朽化した牧柵の撤去及び景観配慮型牧柵への改修、野焼きの継続・再開支援など
- アクティビティの充実**：カルデラ景観とホスピタリティをミックスした天空ヨガ、星空の専門家が案内するナイトトレッキング、地元グルメも堪能できるサイクリングプログラム「タバコギ」、温泉・食材を活かしたガストロノミーワーク、阿蘇の火山・草原を体感できるサイクリングルート「エコトラック」の設置、農家民泊プログラムなど
- 利用環境の改善・向上**：利用拠点となる南阿蘇VC、草原C、長者原VCや火山博物館（民間）のWifi整備、阿蘇くじゅう国立公園で利用者数が最大の観光スポットとなる「大観峰」や「草千里」での多言語化、トイレ洋式化
- 熊本地震の復興等**：阿蘇パノラマライン、南登山車道、依山トンネル、長陽大橋ルートの復旧、菊池渓谷自然歩道の復旧

加速化・強化が必要な取組

より便利で、より分かりやすく、様々な使える空間に

- 多様なニーズに対応できるアクティビティ数は一定数あるが、クレジットカード決済できるアクティビティ事業者は少ない。金融系オフィシャルパートナーと連携し、事業者のキャッシュレス化を推進
- 旅行者と旅行事業者をつなぐ観光地域づくりプラットフォーム（DMO等）と連携し、旅行者がアクティビティ、体験スポット等を一元的・簡易的に検索、案内できるシステムの構築を推進し、多言語対応した情報案内及び検索の利便性を向上
- 熊本地震で被災したJR復旧はメドが立っていない状況。一方で、九州における訪日外国人のレンタカー・タクシー利用が増加。九州運輸局と連携し、レンタカーデスクやタクシー業者に阿蘇くじゅうに国立公園へのルートや運転時間等を簡単に分かるアクセスマップ等を提供し、二次交通における利便性を向上
- 阿蘇火口の火山ガス規制等により利用機会を損失する場合がある。熊本県、関係自治体と連携し、主要景観地における利用の多様化を推進



阿蘇郡市におけるアクティビティ事業 (2017年)

アクティビティ事業者数	65
うちキャッシュレス対応	29
うち多言語ガイド対応	6
うち多言語化HP掲載	11
アクティビティ数	167
うちアウトドア*	60
うちインドア	9
うちグルメ・地元食材	66
うちクラフト等	32

※トレッキング、沢登り、サイクリング、乗馬、草ソリ、パラグライダー、ヘリ遊覧、ナイトバイク等

(公財) 阿蘇地域振興デザインセンター調べ

満足度相関より、プログラム、遊歩道・展望台が優先課題

◆アクティビティは多種多様あるものの、クレジットカード決済、多言語案内等の整備が不十分

◆火山ガス規制等により主要景観地の利用機会に影響

訪日外国人レンタカー利用件数 (九州地方)

年	件数 (件)	累計日数 (日)	日数平均 (件)	増加率 (対前年比、%)
2016	16,901	116	145.7	
2017	28,497	116	245.7	69%

※ 調査期間は、2017年9月1日～12月25日（貸出日ベース）で実施
国土交通省九州運輸局 H30年3月29日公表データより

●訪日外国人旅行者の利便性を向上 (キャッシュレス化、情報案内の一元化・多言語化、二次交通の簡易化等)

●主要景観地の利用の多様化 (代替利用の開発、歩道等の新設等)

熊本地震で被災したJRに代わり、阿蘇くじゅう国立公園に入る二次交通としてレンタカー、タクシー利用が急増

阿蘇くじゅう		個別目標	2016	2017	2018	2019	2020
訪日外国人 国立公園利用者数 (万人)		利用者数 140	利用者数 67.5	利用者数 92.6			利用者数 140
特徴① 火山と草原の 雄大な景観の 感動体験！	2020年 景観改善の取組	眺望スポットの通景伐採、老朽化牧柵の撤去と景観配慮型への改修		利用拠点における電柱 移設・埋設			
	2019年 主要景観地における利用の 多様化	野焼き支援等による草原景観の維持		阿蘇火山利用計画策定 (環境省、熊本県、阿蘇市)			歩道等利用施設整備 (環境省、熊本県、阿蘇市)
特徴② ナショナルパーク としての利用環 境の改善・向上	2018年 南阿蘇VCカフェの本格開業	南阿蘇VCカフェ デッキの整備		南阿蘇VCカフェ の運営調整	南阿蘇VCカフェ開業		
	2018年 アクティビティ事業者等の キャッシュレス化	金融系企業とのオフィシャル パートナーシップの締結		アクティビティ事業者等のキャッシュレス化			
特徴③ 熊本地震等の 体験を活かし、 安全に楽しめる 場へ	2018年 レンタカー・タクシー利用 の利便性の向上	九州運輸 局、関係業 者との調整		レンタカー、タクシー事業者へのガイドブック配布			
	2018年 観光情報案内の一元的・簡 易検索システムの構築	観光情報案内の一元的及び簡易化、 多言語コールセンター活用の検討		観光情報案内の一元的・簡易検索システムの運用 多言語コールセンターの活用体制の構築			
	2019年 観光情報案内の一元的・簡 易検索システムの構築	コンテンツ集の 作成 (環境省)		在日留学生のInstagramによる世界発信 (環境省)			
	2019年 草千里VCの整備	草千里VC整備計画策定 (環境省)		草千里VC整備 (環境省)		草千里VCの運営 (環境省)	
	2019年 阿蘇山上等の安全対策	阿蘇山上安全柵整備 (環境省)		阿蘇山上橋再整備 (環境省)			
	2020年 熊本地震遺構ミュージアム の整備	震災遺構ミュージアム計画策定 (熊本県)		阿蘇山上中岳・高岳歩道標識改修 (環境省)		震災遺構ミュージアム整備 (熊本県)	



霧島錦江湾国立公園 満喫プロジェクト

赤字は実施済の取組

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾

(数値目標) ~ 外国人利用者数 7.1万人(2015年) → 20万人(2020年) ~

~ まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食 ~

特徴①

歴史と神話に彩られた活きた火山景観、日本の国立公園の原点である雄大な自然を体感

天孫降臨神話のある高千穂峰、活火山で現在も噴煙を上げる新燃岳や桜島、海域カルデラ景観が広がる錦江湾など、多種多様な火山景観を中心に、我が国最初の国立公園の風格を存分に堪能

- 利用の拠点となるビジターセンター等における**Wi-Fi整備、多言語対応の強化**(H29)
- 本土最南端・佐多岬の一体的な利用環境の整備**(~H30)
- 絶景を眺められる展望地の整備** (えびの高原つつじヶ丘、御池、白鳥温泉上湯、鰻池) (H29)
- えびの高原の魅力向上に向けた**土地活用や民間活力の導入に向けた検討、キャンプ場の改修**

特徴②

外国人旅行者にとっても魅力的な火山の恵み(温泉、アクティビティ等)を満喫

ダイナミックな火山景観を背景に、多種多様な泉質の温泉や山と海を見渡せる温泉等を快適に楽しみ、火口湖や海での水上アクティビティや天然温泉掘り等の火山ならではの体験を堪能

- ファミトリップや事業者ワーキング会議を通じたFITプレミアム層をターゲットとした**滞在型プログラムの造成検討**
- 火口湖や海でのアクティビティの開発・充実** (白紫池・池田湖・重富海岸などでスタンドアップパドルボートを試行・導入)
- 九州自然歩道等を活かした**ゆくり歩いて楽しむプログラムの造成** (地元観光団体がロングトレイル構想を検討中)
- 国立公園フォトコンテストや外国人向けツアー・イベントの開催、外国人おもてなし店舗の認定、スタッフ・ガイドの充実**

特徴③

特色ある3地域を周遊・滞在し、山から海まで、

多様な南九州の自然・文化・食をまるごと満喫

多彩な魅力を持つ3地域(霧島・桜島・錦江湾奥、指宿・佐多)を周遊・滞在しながら、山から海まで、南九州の自然・文化・食をまるごと堪能

- 指宿港からの高速船と連携して佐多岬・雄川の滝等をめぐる周遊バス、霧島南麓の交通拠点と観光スポットをつなぐ**観光周遊バスの運行**(H29~)
- 道の駅えびのにおける**アウトドア拠点施設の整備**(H29)
- プロモーションツールの作成・発信**、地域の旅行会社や宿泊事業者等と**連携したツアーの充実**
- エメラルドグリーンの滝壺が美しいインスタスポット「**雄川の滝の国立公園への編入**」(H30夏)

ビューポイント

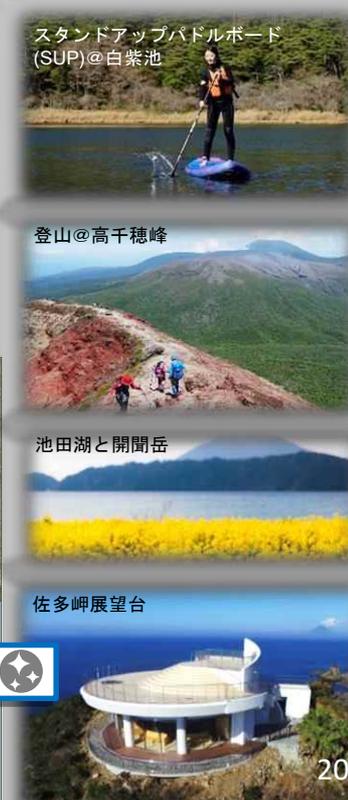
えびの高原・白鳥温泉

えびの高原・つつじヶ丘

寺山公園から望む錦江湾奥部

シーカヤック@錦江湾

桜島



公園全体の取組

- 連携
- イベント
- ツアー

○ 国立公園区域
● ビューポイント
— アクセラート

霧島錦江湾国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

利用者数は順調に増加、一方満足度は低水準

●総評

国立公園の訪日外国人利用者数は増加している一方、利用者の満足度は低い水準である。

満足度を高めるため、引き続き展望地の整備やビジターセンター等の利用環境の改善等の取組を継続して実施するとともに、「多言語対応の強化」「滞在型プログラムの充実」「2次交通環境の改善」「情報発信・案内の強化」の4分野の取組を強化・加速化する必要がある。

- 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 20万人)
2015年 2016年 2017年
7.1万人 → 7.9万人 → 12.9万人
(8.3%) (8.7%) (7.4%) ()は標準誤差
※LCCの就航便数の増加やクルーズ船寄港数の増加により、域内への流入数が増加したと考えられる
- 鹿児島県や宮崎県への訪日外国人宿泊者数
両県の訪日外国人宿泊者数が2015年から2017年に
かけて約66.1%増加(のべ61.8万人→102.6万人)

○質の指標

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額
2017年度 73,843円
- 国立公園周辺外国人平均宿泊日数
2017年度 3.1泊
- 国立公園での外国人リピーター率(2回目～)
2017年度 8.4%
- 満足度(「大変満足」の割合)
2017年度 24.0%

これまでの成果

国立公園訪日外国人利用者数が2年間で82%増加

●雄大な自然を一望！展望地の整備

絶景を見渡せる本土最南端・佐多岬の展望台等(整備後の利用者が約2.1倍に増加)、活きた火山景観と四季の変化を楽しめるえびの高原・つつじヶ丘の園路、加久藤カルデラを俯瞰する白鳥温泉上湯近くの展望スペース、静かな湖畔から高千穂峰を仰ぐ御池の展望デッキ・歩道

●情報収集・発信をスムーズに！ビジターセンター等の利用環境の改善

利用の拠点となるえびのエコミュージアムセンターや重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム、桜島フェリーターミナル等におけるWi-Fi整備、多言語対応等の強化など

●ビューポイントに容易にアクセスできる！地域の2次交通環境の改善

指宿港からの高速船と連携して佐多岬・雄川の滝等をめぐる周遊バスの運行、交通拠点と観光スポットをめぐる横向き座席で景色を見ながら移動できる九州初導入の周遊バスの運行

●国立公園で多彩な体験ができる！滞在型プログラムの造成検討、プロモーションなど

ファミトリップや民間事業者ワーキング会議によるFITプレミアム層をターゲットとした滞在型プログラムの造成検討、白紫池や池田湖、重富海岸でスタンドアップパドルボード(SUP)を試行・導入するなど火山湖や海でのアクティビティの開発・充実、国立公園フォトコンテスト・写真展の開催、ガイド人材・団体の養成・充実(新たに4団体・事業者が発足・活動開始)、地域の旅行会社や宿泊事業者等と連携したツアーの充実など

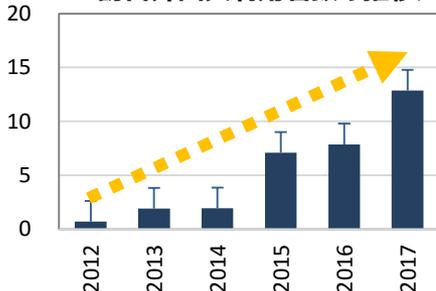
加速化・強化が必要な取組

より快適に、より深く、より長く、国立公園を楽しむことができるよう4分野の取組を集中的に実施。「○○できるようになった」を増やしていく。

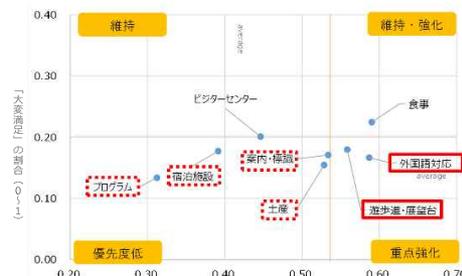
満足度調査やアンケート調査から、これまでの取組の継続に加えて、「多言語対応の強化」「滞在型プログラムの充実」「2次交通環境の改善」「情報発信・案内の強化」の4分野の取組を強化することが有効

- 利用者数は増加しているものの、満足度は24%と8公園の中で最も低い
- 霧島錦江湾国立公園を訪れた訪日外国人に、これまで以上に快適かつ魅力的な時間を過ごしてもらい、旅行者の満足度を高めていく必要
- 満足度調査やアンケート調査から、引き続き展望地の整備やビジターセンター等の利用環境の改善等の取組を継続して実施するとともに、「多言語対応の強化」「滞在型プログラムの充実」「2次交通環境の改善」「情報発信・案内の強化」の4分野の取組を強化・加速化することが満足度を高めていくために有効
- 今後、ステップアッププログラムに記載されている目標を着実に実施し、特に加速化させる必要がある取組を選定し早急に推進する。あわせて必要な見直しを図る

＜霧島錦江湾国立公園 訪日外国人利用者数の推移＞



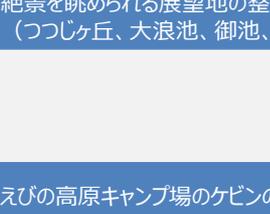
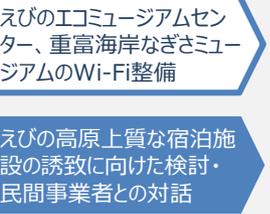
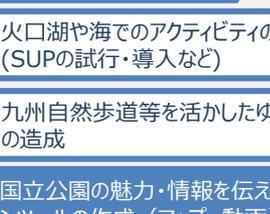
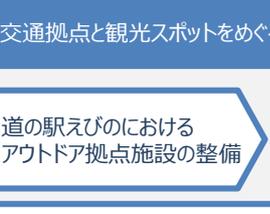
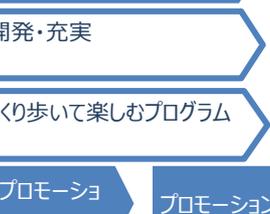
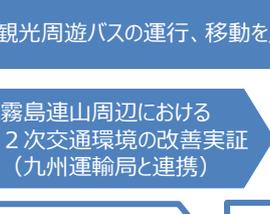
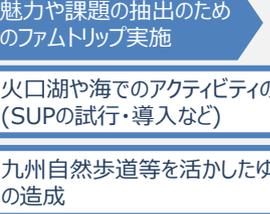
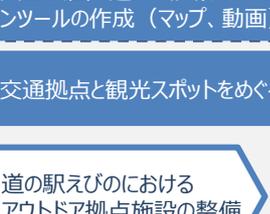
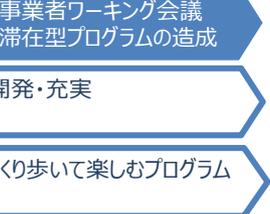
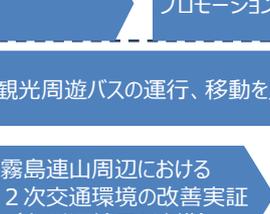
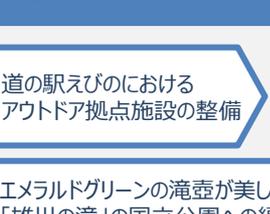
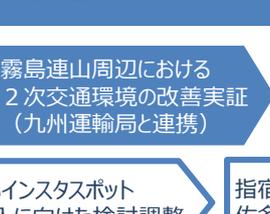
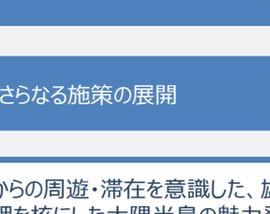
国立公園の訪日外国人利用者数は増加
↓
しかし、霧島錦江湾国立公園の満足度は
8公園の中で最も低い24.0%
↓
満足度を高めていく取組が必要
長期滞在・再訪を促し、地域内消費を
増大させることが重要



強化4分野

- 多言語化対応の強化
- 滞在型プログラムの充実
- 2次交通環境の改善
- 情報発信・案内の強化

より快適かつ魅力的な時間を過ごせる国立公園に

霧島錦江湾		個別目標	2016	2017	2018	2019	2020	
訪日外国人 国立公園 利用者数 (万人)			利用者数 7.1	7.9	12.9		利用者数 20	
特徴① 歴史と神話に 彩られた活きた 火山景観、日 本の国立公園 の原点である雄 大な自然を体 感		2018年 本土最南端・佐多岬の整備 完了 2020年 えびの高原の魅力化に向け た施策の実施	 本土最南端・佐多岬の一体的な整備 (展望台・エントランス広場・園路等)	 絶景を眺められる展望地の整備 (つつじヶ丘、大浪池、御池、白鳥温泉上湯、鰻池)	 集団施設地区の再整備検討 (えびの高原・高千穂河原・指宿)	 各集団施設地区の再整備推進		
特徴② 外国人旅行者 にとっても魅力 的な火山の恵 み (温泉、アク ティビティ等) を満喫		2019年 滞在型プログラムの造成 2020年 滞在型プログラムの販売を 手掛ける地域の旅行会社・ 宿泊施設・ツアーデスクの 増加	 えびの高原キャンプ場のケビンのリニューアル等	 えびの高原上質な宿泊施 設の誘致に向けた検討・ 民間事業者との対話	 えびの高原の魅力向上に 向けた土地活用や民間活 力の導入に向けた検討	 えびのエコミュージアムセン ター、重富海岸なぎさミュ ジアムのWi-Fi整備	 えびのエコミュージアムセン ター、重富海岸なぎさ ミュージアム等における多言語対応強化	 各施設における多言語対応強化
特徴③ 特色ある3地 域を周遊・滞在 し、山から海ま で、多様な南九 州の自然・文 化・食をまるごと満喫			 魅力や課題の抽出のため のファムトリップ実施	 事業者ワーキング会議 滞在型プログラムの造成	 滞り型プログラムの磨き上げ・着地販売の促進	 2019 ラグビーワールドカップ	 2020 東京オリンピック	
		2018年 雄川の滝国立公園編入	 交通拠点と観光スポットをめぐる観光周遊バスの運行、移動を魅力的な体験に変える仕様のバスの運行	 道の駅えびのにおける アウトドア拠点施設の整備	 霧島連山周辺における 2次交通環境の改善実証 (九州運輸局と連携)	 さらなる施策の展開		
			 エメラルドグリーンの滝壺が美しいインスタスポット 「雄川の滝」の国立公園への編入に向けた検討調整	 指宿からの周遊・滞在を意識した、雄川の滝や 佐多岬を核にした大隅半島の魅力発信				

慶良間諸島国立公園 満喫プロジェクト

※訪日外国人の割合 15%

(数値目標等) ~ 利用者数 22.4万人(2015年) → 25.3万人(2020年) ~
利用者の満足度の向上

ちゅ

美ら海慶良間 - リトリート・海と島がつくるケラマブルーの世界 -

特徴①

「ケラマブルーの世界」で過ごすリトリートの時間

ケラマブルーの海や島々が作りだす美しい景観の中で、ゆっくりとした非日常の時間を過ごし心を癒やす、快適なリトリート空間を確保

 ケラマブルーの海を目の前にして、ゆっくりと島の時間を楽しめる展望休憩所「ニシバマテラス」を、阿嘉島にオープン予定 (2018年7月)

 リトリートの実現に必要な各種情報・サービス等を提供する多言語に対応した基盤施設の整備を計画 (2018年3月、渡嘉敷島、座間味島の主要拠点における整備基本計画を策定)

特徴②

サンゴ礁の保全につながる良質な旅

サンゴ礁を中心とした島の自然を保全しながら持続的に活用していくため、そのための普及啓発と地域の仕組みづくりを推進

 慶良間諸島の魅力紹介、サンゴ礁保全に関する普及啓発等を行う拠点施設「さんごゆんたく館」が、阿嘉島にオープン (2018年3月)

 移動中の船舶内において、サンゴ礁保全等に関するルールの普及啓発について、多言語による周知 (2018年4月より)

 座間味村で、入域に際した環境協力税「美ら島税」を導入。 (2018年4月より)

特徴③

一年中楽しめる海と陸のアクティビティ

冬季の入域者を増加させ陸域の利用を推進するため、資源の魅力を十分に活用したツアー・プログラム等を提供

 冬季におけるホエールウォッチングを基軸とし滞在プログラムを検討 (2018年1月、ファミトリップを実施)

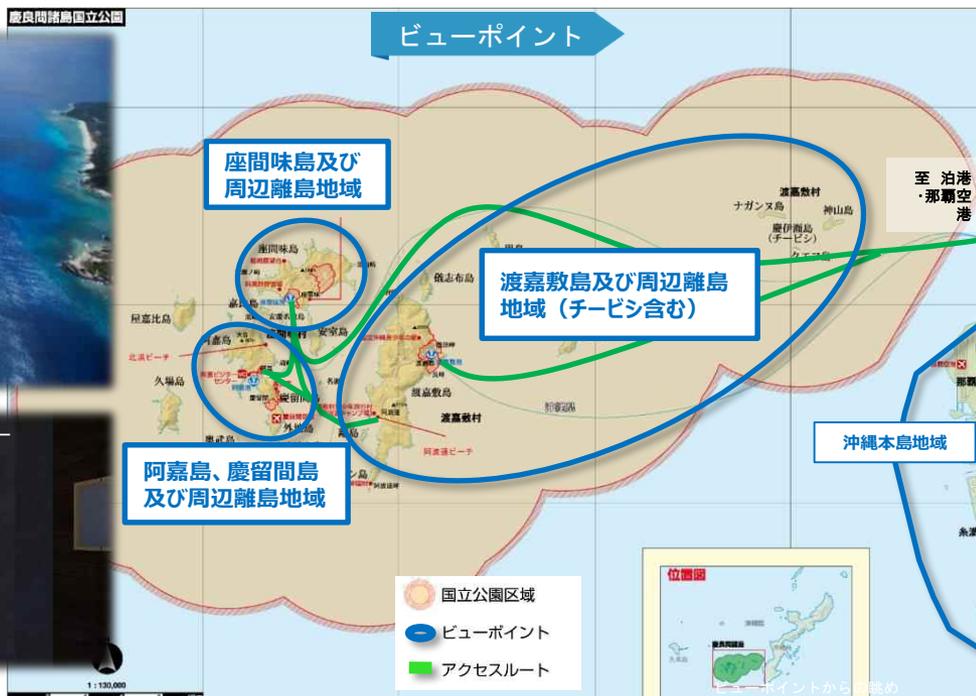
 既存施設等の多言語化対応を実施し、利用者ニーズに対応できる受入環境を構築 (多言語解説整備支援事業を活用予定)

 港の玄関施設への外国人対応スタッフの配置やガイドのスキルアップ等により、外国人旅行者のアクティビティの受入体制を充実

ケラマブルーの海



ニシバマテラス (阿嘉島) - 整備イメージ



さんごゆんたく館 (阿嘉島)



ホエールウォッチング



慶良間諸島国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

「リトリート」実現に向けた公園サービスの充実について、さらなる加速化が必要

●総評

- ・訪日外国人国立公園利用者数及び全体に占める割合については、いずれも目標値を達成。
- ・「リトリート」の実現及びサンゴ礁保全のための地域の基盤づくりについては、ハード、ソフト両面から進捗中。
- ・冬季の入域者については、なお横ばい傾向にあり、サービス基盤を充実、プロモーション等を取組強化が必要。

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 3.8万人)

2015年 2016年 2017年
3.4万人 → 4.1万人 → 4.3万人
(15%) (17%) (17%)

各種情報媒体によるPR効果により増加したものと推測

●その他SUPで独自に定めた目標

- ・冬季の入域者の増加(2020年目標 6.7万人)

2015年 2016年 2017年
4.3万人 → 4.6万人 → 4.6万人

- ・良質な旅の提供(利用者の満足度の向上)
- ・通年延べ宿泊日数の増加及び一人あたり連泊日数の増加

○質の指標

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額
2017年度 49,028円
- 国立公園周辺外国人延べ宿泊者数
2017年度 5.6泊
- 国立公園での外国人リピーター率
2017年度 11.9%
- 満足度
2017年度 50.2% (「大変満足」の割合)

これまでの成果

「リトリート」及び「良質な旅」の実現に向けた、地域の基盤づくり

「リトリート」及び「良質な旅」の実現に向け、豊かなサンゴ礁の保全を基本としながら、ハード、ソフト両面における公園サービス提供のための基盤づくりを推進。

- 3月に阿嘉島にオープンした「さんごゆんたく館」では、国内外からの来訪者により幅広い利用が行われ、7月には同島に「ニシバマテラス」がオープンし、リトリートのための受入環境を充実。
- 各島において老朽化した施設の撤去・改修、再整備に着手し、各種情報媒体を用いた多言語対応を実施し、安全かつ快適な利用環境を確保。また、3月に渡嘉敷島及び座間味島における利用拠点施設の基本計画を策定。
- 4月から座間味村において導入された「環境協力税」(美ら島税)は、今年度税収約1,000万円を見込み、今後、自然環境の保全等に活用される予定(渡嘉敷村は、2011年に導入済み)。
- 4月より那覇と各島を結ぶ移動中の船舶内で、サンゴ礁保全のルール等について、映像ソフトを用いた多言語による普及啓発を開始。

加速化・強化が必要な取組

「ケラマブルーの世界」を持続可能な「リトリート」空間に

(国立公園としての基盤整備と普及啓発)

- 本公園の価値や魅力に関する情報発信、「リトリート」及び「良質な旅」を支えるきめ細かな情報サービスの提供、サンゴ礁の保全に関する普及啓発をより一層進めるとともに、それらの取組を補完する基盤施設として、国立公園の利用拠点となる施設の整備を進める。
(リトリート空間の充実)
- ビューポイントにおける老朽化した施設の再整備及び各種情報媒体を活用した多言語対応を促進し、リトリート空間の充実を図る。
(サンゴ礁の保全)
- 本公園の本質的な価値であるサンゴ礁を中心とした「ケラマブルーの世界」を将来にわたり守っていくため、地域と来訪者が協力し守るモデル的な地域づくりを推進する。
(冬季利用の推進)
- ホエールウォッチングツアーを基軸とした陸域を活用した魅力あるプログラムを定着化させ、受入体制を強化する。併せて、冬季のコンテンツの商品化を進めるとともにプロモーションを強化する。

さんごゆんたく館



ニシバマテラス—眺望イメージ



阿波連海岸園地休憩所—整備イメージ



慶良間諸島	個別目標	2016	2017	2018	2019	2020
訪日外国人 国立公園 利用者数 <small>【冬季（11～3月）の 入域者数】 (万人)</small>		利用者数 4.1 <small>【4.6】</small>	利用者数 4.3 <small>【4.6】</small>			利用者数3.8 <small>【6.7】</small>
特徴① 「ケラマブルー の世界」で過ごす リトリートの 時間	2018年 リトリート空間の創出 2019年 渡嘉敷島利用拠点施設整備 2020年 座間味島利用拠点施設整備	  	阿嘉島「ニシバマテラス」設計・ 整備、オープン予定（2018.7） 座間味島神の浜園地 基本計画策定 利用拠点施設基本計画 策定	座間味島神の浜園地 設計・整備 渡嘉敷島利用拠点施設 設計 施設の管理運営体制構築	渡嘉敷島利用拠点施設 整備 座間味島利用拠点施設 設計	座間味島利用拠点施設 整備
特徴② サンゴ礁の保 全につながる 良質な旅	2018年 阿嘉島利用拠点施設整備 2018年 保全ルール等の普及啓発 2018年 環境協力税の導入 <small>（渡嘉敷村は2011年度に 導入済み）</small>	 	阿嘉島「さんごゆんたく館」整備、オープン（2018.3） 映像製作 導入検討	慶良間諸島の魅力紹介、サンゴ礁保全の普及啓発強化 船内映像で「保全ルール」等の広報 座間味村で「環境協力税 （美ら島税）」導入	サンゴ礁保全等の多言語による情報提供強化 自然環境の保全等に活用	
特徴③ 一年中楽しむ 海と陸の アクティビティ	2020年 新たなツアー・プログラムの 提供 2020年 受入環境及び体制の構築	 	ファムトリップ実施 各種プロモーション実施	冬季のツアー・プログラムの 商品化 陸域の地域資源・既存施設等の多言語対応を強化 ガイド等の人材育成・施設等受入サービスの体制強化	冬季のプロモーション強化	ツアー・プログラムの提供 受入環境構築 受入体制構築